

これからの時代を生き抜くための医師のキャリアプラン

科目責任者 平 田 幸 一
学年・学期 1 学年・通年

I. 前 文

当然のことながら、諸君は獨協医科大学には自らの目的、夢、将来像を想い入学したものと思う。

大半の諸君は臨床医、研究医などになり多くの病に苛まれる患者のために何らかの形で役に立つことを目標として入学したと信じている。近年、プロフェッショナルリズム教育は医師養成課程に必須のものと考えられているが、本講義では医師としてのプロフェッショナルリズムのあり方を学ぶ。そのロールモデルとして、本学の教職員個々の歩んできた道程について述べてもらう。さらに、本学および大学病院で行われている最先端医療、最先端研究について紹介してもらう。

II. 担当教員

<臨床医としてのキャリアプラン>

副学長	平 田 幸 一	
教 授	入 澤 篤 志	内科学（消化器）
教 授	三 谷 絹 子	内科学（血液・腫瘍）
教 授	麻 生 好 正	内科学（内分泌代謝）
教 授	仁 保 誠 治	内科学（呼吸器・アレルギー）
教 授	楯 靖	放射線医学
教 授	吉 原 重 美	小児科学
教 授	小 嶋 一 幸	上部消化管外科学
教 授	阿久津 博 義	脳神経外科学
教 授	福 田 宏 嗣	心臓・血管外科学
教 授	千 田 雅 之	呼吸器外科学
教 授	妹 尾 正	眼科学
教 授	朝 戸 裕 貴	形成外科学
教 授	濱 口 眞 輔	麻酔科学
教 授	小 野 一 之	救急医学
教 授	竹 川 英 宏	脳卒中センター
准教授	大 内 基 司	薬理学
講 師	福 島 篤 仁	ゲノム診断・臨床検査医学

<基礎研究医としてのキャリアプラン>

教 授	徳 田 信 子	解剖学
教 授	神 作 憲 司	生理学
教 授	杉 本 博 之	生化学
教 授	藤 田 朋 恵	薬理学
教 授	矢 澤 卓 也	病理学
教 授	増 田 道 明	微生物学
教 授	白 瀧 博 通	分子細胞生物学
教 授	小 橋 元	公衆衛生学
教 授	黒 須 明	法医学
特任教授	千 種 雄 一	

Ⅲ. 一般学習目標

臨床・基礎医学に携わる各教職員の経験した道筋を知り、学修者のロールモデルに重ねる。あわせて、各分野の最新医学の現況を知る。

優れた研究者や臨床の最前線の医師の活躍を理解する。

医学を学ぶことへの動機づけを行う。

医師としての目標や将来のビジョンを考える。

Ⅳ. 学修の到達目標

医師としてのプロフェッショナリズム、良識、倫理、信念を学び、1学年生なりの自らの医学への携わり方、すなわち自身の医師のキャリアプランにつき思いを馳せる。

キャリアについて基礎的な知識や考え方を理解できる。

自分のキャリアについて、過去・現在・未来の連続性を見出せる。

卒業後の社会における自分について、キャリアという視点からイメージできる。

Ⅴ. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)

2：ディスカッション, ディベート 3：グループワーク 4：実習, フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	4	13	水	3	君たちはどのように医療に携わりたいのか（全体オリエンテーション）	平 田 幸 一	
2		18	月	3	全人的医療から産婦人科そして公衆衛生へ	小 橋 元	
3		25	月	5	感染症の時代を生き抜くために…	増 田 道 明	
4	5	9	月	5	Knock, and it be opened to you	入 澤 篤 志	
5		16	月	5	医学研究への志向を滋養する	神 作 憲 司	
6		23	月	5	呼吸器腫瘍内科医のキャリア	仁 保 誠 治	
7		30	月	2	臨床医から基礎医学研究へ	白 瀧 博 通	
8	6	6	月	2	一人の血液内科医が辿った道 ～分子生物学とであって～	三 谷 絹 子	
9		14	火	4	医師としてキャリア形成：人との出会いを大切に	阿久津 博 義	
10		20	月	4	医師として生きる “よりどころ”	楫 靖	
11	8	22	月	4	生き抜くために「技」を身に付ける	濱 口 眞 輔	
12		29	月	4	小児科医のやりがいと魅力	吉 原 重 美	
13	9	5	月	4	眼科の魅力	妹 尾 正	
14		12	月	4	法医学ってなに？	黒 須 明	
15		26	月	4	100倍の患者さんを助けるために	徳 田 信 子	

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
16	9	28	水	4	形をつくる外科医をめざして	朝 戸 裕 貴	
17	10	3	月	4	一病理医としての自分と一基礎研究医としての自分	矢 澤 卓 也	
18		17	月	3	生化学と私	杉 本 博 之	
19		20	木	4	脳卒中診療に興味を持ったことから始まった これまでの経験	竹 川 英 宏	
20	11	1	火	5	新世界へ	小 野 一 之	
21		2	水	4	未 定 (後日連絡します)	福 島 篤 仁	
22		17	木	2	良い土に蒔かれる人になり、百倍の実を結ぼう！	藤 田 朋 恵	
23		30	水	5	奥深い老年医学との出会い	大 内 基 司	
24	12	2	金	5	生涯 一臨床医 一研究者	麻 生 好 正	
25		12	月	3	寄生虫病医 ～ フィリピン患者さんと共に歩んで ～	千 種 雄 一	
26		16	金	4	外科医として生きる	千 田 雅 之	
27	1	4	水	5	心臓・血管外科医の歩み	福 田 宏 嗣	
28		18	水	1	外科医という仕事	小 嶋 一 幸	

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

積極的な授業への参加度 (30%)・レポート (70%) により評価する。

VII. 教科書・参考図書・A V資料

特に指定しない。

VIII. 質問への対応方法

メールにて受け付ける。(kyoumu@dokkyomed.ac.jp)

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートについては必要に応じて個別にフィードバックを行う。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前：シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

事後：シラバス別冊に記載が無い場合、講義内容を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

A-8 科学的研究 その他